

# 不撓不屈

ふとうふくつ

物流施設を着工

1990年に生じた6億3000万円の負債。半導体・電子部品商社の明光電子(横浜市港北区)は、メモリーモジュールを製造するベンチャー企業(VB)に沖電気工業のDRAMを販売していた。当時の日本はDRAMで世界シェア7割を誇り、伝票1枚で1億円を売り上げる時代。だが人件費の安い台湾でもメモリーの量産が始

## 明光電子

③

### 6億円の負債

まり、価格が一気に下落する返済計画を作成し、してそのVBは倒産し沖電気に提示した。融資した。明光電子は商品も回収できず、巨額の負債を抱えた。それまでは順風満帆だった。85年に約3億円を投じて本社ビルを完成し、物流センター(福岡県大野城市)も建設費の3分の1を支払って着工していた。だが、取引銀行が残りの融資を止めた。

## 新しい物好き VB 経営で頓挫

取引先から支援融資がなければ、建設が進まないところか借金を抱えてしまう。社長の十川正明は15年間で完済



本社の記念式の入社式(1998年4月)の撮影(1998年4月)の前の大野城市にある明光電子社

創業した半導体VB、アんでいた。FPGA(フイビーフレックス)の経営に間違ったことだ。同社は日本の技術系VBでは破格の総額62億円の資金を富士通など30社以上から調達。目的に依りてマイコンの回路構成を柔軟に変えられる動的

販売先を明光電子に渡し、ある仕入れ先は正規の激しいDRAMは取り扱いはやめた。十川は「巨額の負債は損ではなく得したと思っに営業所を開設し、首都圏に進出。04年には念願だった沖電気への返済が完了した。「返済するまだが、生来の「新しい物好き」が災いする。00年に再構成プロセッサを開発し、富士ゼロックスやリコーなど複写機メーカーに納入した。しかし開発コストは高く、資金を貸す。それでも誰もやっていないことをやりた。十川は「02年頃から、新しい物好きである。」

(敬称略)